

## 令和5年度 堺看護専門学校における自己点検、自己評価 報告

1. 目的 本校の教育活動その他学校運営状況について、自己点検・自己評価を行うことにより改善点を明らかにし、教育水準の維持、向上を図るために実施する。

### 2. 自己評価・自己点検の方法

- 1) 堺看護専門学校自己点検・自己評価規定に基づき、評価を実施する。  
その結果を分析し改善点を明らかにする。

### 3. 評価内容

カテゴリー	2023年度	2022年度	分析結果
I 教育理念・目標点検	2.8	2.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム改正に伴い、本校の設置主体である堺市医師会の基本方針に基づき、堺市の保健・医療・福祉に貢献できる看護師を育成することを理念とし明示している。</li> <li>・カリキュラム改正より、教職員が教育理念のもと日々の教育活動につなげ実践に取り組んでいる。また、学生にも十分説明し到達目標を達成するための学習計画や内容を理解し、学習に取り組めるようにしている。</li> </ul>
II.教育目的点検	2.8	2.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念に基づき、各科でディプロマポリシーの検討を行うことで、教育目標が明確になった。</li> <li>・教育目標の達成度は、各学年ごとに年度末に学生の自己評価をもとに分析を行っている。</li> </ul>
III教育課程経営点検	2.5	2.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム改正とともに実習施設を開拓したが、地域交流や、多職種連携など新たな科目については十分な教育課程編成の理解等ができておらず前年と比し低下している。</li> <li>・臨地実習では、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し感染拡大期には一部実習時間の制限もあったが、調整を行いほぼ計画に従って実習施設で履修することができた。</li> <li>・教員の教育・研究活動の充実では、授業の準備時間が十分取れない現状であるが、研修などには経験年数を考え参加できるようにし、合同教務会議等で報告会を実施している。</li> <li>・主体的に研修会に参加できるシステム構築と、研修での知識を教育活動に活かした教育実践活動の報告や共有し、教員の教育力の向上に努める必要がある。</li> </ul>
IV教育・学習・評価過程点検	2.5	2.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスの見直しを行い、必要な記載内容の項目について統一した。カリキュラム改正においては、入学時に教育目標や、学べき科目の学習内容等を提示し、科目や実習の位置づけを確認できるようにした。しかし学生の動機づけになっている実感がなく、教員が工夫を行いグループワークやプロジェクト学習、演習やシミュレーションなど効果的な学習について考え取り組んでいるが、さらに学生が主体的に学ぶ教育方法の工夫が必要である。</li> </ul>
V経営・管理過程点検	2.4	2.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年の社会情勢に応じて、学校の再編成の計画が打ち出された。長期的な展望と方針について説明を行いながらスムーズに進行できるように協力を得る。経営的視点も踏まえた学校運営が必要である。</li> <li>・安定した学校運営を行うため受験生の確保や就学生の維持は重要課題である。入学生にニーズに合わせた学則の見直しや、学習環境の検討などプロジェクト活動として学校全体として取り組んでいる。</li> <li>・また、実習施設との連携を図り、就学・就職の支援を行っている。</li> </ul>
VI入学点検	2.4	2.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度より、看護第1学科のみの入試となり、受験生の減少が顕著である。指定校推薦や、公募推薦、社会人入試等で入学生の確保に努めている。</li> <li>・今後も、ICTの活用や、学生のニーズに合わせた学校の情報発信を行い、アドミッションポリシーに応じた学生選抜の検討を行う。また、今後は男子学生の受け入れも検討し学校PR,広報活動を強化する。</li> </ul>
VII卒業・就業・進学点検	2.3	2.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業時の到達状況は、継続的に確認し評価している。全学生の卒業後の活動状況等の把握はできていないが、実習施設において卒業後の状況を共有している。学校案内のパンフレットの作成において卒業生の協力を得て情報発信したり、卒業生を招き在校生と交流できる機会も作っている。</li> <li>・資格試験取得については入学時より対策を行っているが、看護第1学科では、合格率が全国平均を下回る結果となった。国家試験対策を見直し、1年時より動機づけを行い学生の状況に応じた学習支援を細やかに行う必要がある。</li> </ul>
VIII地域社会・国際交流点検	2.2	2.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会・国際看護の講義は行っているが、国際交流はできていない。新カリキュラムにより地域をフィールドとして臨地実習の中で交流やボランティアなどの活動に参加している。</li> <li>・また、北区の自治会に加入し、精神復帰施設のパザー開催の案内を地域に配布してもらった。</li> <li>・今後は、地域で必要とされる看護職育成の理解と協力を得られるように、学校から発信していく必要がある。学校を開放し学生と地域の人々が交流できる機会を企画していく。</li> </ul>
IX研究点検	2	1.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専任教員養成講習会受講後の教員育成として、研究に取り組み学校内で発表している。また、研修報告等学びを共有する機会を作っている。</li> <li>・研究活動の組織的支援体制が十分ではなく、改善に至っていない現状であるが、研修等で学んだことを活用した実践報告や研究活動につながる支援体制を作っていく。</li> </ul>

4. 結果 (2023年度・2022年度比較)

